

佐賀星生学園設立の趣意

佐賀県内における中学校不登校生徒数は、1999年度以降、700人台で増減を繰り返していましたが、2007年度の県内中学生の不登校が過去10年間で最多の823人（学校基本調査速報，2008）となり、学校全体に占める割合が2.87%に達しました。また、近年、知的障害を伴わない発達障害の子供たちの急激な増加が顕著なため、文部科学省では「学習障害児に対する指導体制の充実事業」（2000年度実施）を15地域に委嘱したり、発達障害児童生徒への教育支援体制のガイドラインを策定するなど、支援体制の整備の構築が行われています。このような状況のなか、担任や保護者にとって非常に頭を悩ます問題として、心因性及び非行による不登校生徒や発達障害をもつ生徒の進路選択があげられます。

一方、高等学校においては、学力不振の生徒や不登校の生徒、中退者の増加等への対応が重要な問題になってきています。県内では中途退学者が平成17年度以降増加傾向にあり、平成19年度には県立全日制高校の中途退学者は236人となっています。この中には、発達障害の生徒も含まれている可能性があります。このように高等学校を中退した生徒に対して、どのような方向性を持って支援していくのかも解決すべき事柄です。

上記のような学校不適応者は、対人関係の脆弱性を持っており、自己肯定感が低いため生活面での適応が難しいということと、低学力であることが多く、社会に適応できず、社会から疎外された状態で過ごしている現状があります。こうした現状にも拘らず、佐賀県内においては、軽度発達障害のある生徒を含む学校不適応者に関する取り組みを、専門的な見地から支援している後期中等教育機関の存在は皆無です。このような県下の教育環境に鑑みて、学校不適応者への義務教育以後の支援が喫緊の課題といえます。

この教育現状の課題解決に向けて、学校不適応の生徒、そして高等学校中退者を支援する後期中等教育機関である、高等専修学校「佐賀星生学園」を設立し、彼らが社会的に自立できるよう適切な教育的支援を行うことが設立の趣旨であります。

本学園では、垣根のない環境がユニバーサルな精神を育むという教育理念を掲げ、子どもたちが、学校生活のなかで、垣根のない感覚を体験し、互いに理解し、協働し合う方法を獲得することで、弾力のある人間性を育成する**教育のユニバーサルデザイン化**を目指します。ユニバーサルデザインは製品や施設などハード面ばかりでなく、社会全体のあり方や制度を考えるうえで鍵になる概念です。ユニバーサルな視点で現状の教育の方向性を見極めていきたいと思えます。

そして、彼らの教育課程や授業における支援の内容・方法、卒業に向けた移行支援、進学または就職後の動向等、在学中だけでなく卒業後も含めた包括的支援を行います。

高等専修学校「佐賀星生学園」は、生徒の心や人間性の充実した学生生活の実現を推進し、以って、県内の後期中等教育機関の振興と充実に寄与することを目的として社会貢献を果たしたいと考えるものであります。

平成21年7月1日

加藤 雅世子